

『あおもり創造学』プロジェクト事業

本校では、青森県教育委員会「持続可能な地域づくり『あおもり創造学』プロジェクト事業」の一環として、地域の魅力発信・地域課題解決プログラムを以下のように実施しています。

1 プランの名称

「三戸みらい創生プロジェクト」

2 学校及び地域の現状

三戸高校は定員割れの状態が続き存続の危機にある。また三戸町は青森県内の他の市町村と同様に少子高齢化が進んでいる地域である。特に人口の社会減は顕著でありその理由として地域に核となる産業がないことが挙げられる。

3 プロジェクトの具体的な目標

高校生が地域の抱える課題を主体的に見つけ出し、その解決方法を探究するだけでなく、地域社会と連携をとりながら実践的な取組をすることにより、郷土愛を深め地域の発展のために貢献する意欲を育む。

4 連携先（令和5年度）

三戸町役場まちづくり推進課・八戸学院大学地域経営学部・三戸町教育委員会・三戸町観光協会
特定非営利法人「学びどき」（合同会社「南部どき」2F）・いなかふえ ほっといれぶん
三戸町下在府小路町内会

5 実施プログラム

【令和4年度】

『SDGs アイデアコンテスト』

持続可能な地域社会の創生するために、生徒自身がSDGsの視点から地域活性化や持続可能なまちづくりのための具体的なアイデアをプランニングし、地域の関係者や専門家に対してプレゼンテーションすることで、地域社会の課題と課題解決の方法について理解を深めました。

～探究（発表）テーマ～

「二つの町のコラボレーション!!」・「三戸町の特色探究」・「アニメで地域活性化！」

「防災グッズ～安心できる生活を～」・『三戸遊園地計画！』全世代参加型で明るい未来に」

「高校生がくつろげる放課後を～地域の空き店舗をカフェに～」

「廃校をリノベーション!! ～みんなが使える憩いの場に～」

【令和5年度】

『SDGs みらい創生プロジェクト』

SDGsの観点から、地方公共団体や民間企業、住民などで構成される「まち」のよりよい発展につながるプロジェクトを考え、その実現を目指します。

探究の過程で、地域の抱える課題を主体的に見つけ出し、その解決方法を地域社会と連携をとりながら模索する実践的な取組です。

一人ひとりが探究課題を挙げ、プロジェクトはペア・グループで考え実現を目指しました。

～探究課題一覧～

| |
|---|
| 地域創生～映画館～ |
| 廃校舎を美術館に |
| 在校生から見た高校魅力化とは |
| 11ぴきのねこで三戸の知名度向上と観光客の増加 |
| 三戸町に若者を呼び込むには |
| 11ぴきのねこで知名度向上と人口増加 |
| 若い人の町内会の参加を上げるアイデア |
| 『～若い世代が楽しめる場を～』 |
| 町内会と役場との関係 |
| 子供達とサマースポーツフェスティバル |
| 町づくり推進課の方々とタグを組み隊 |
| 町内会に人を集めるには |
| 三戸の特産品スイーツ！！ |
| 地元の特産品を使って町おこし |
| ヤングスポーツ |
| 地元をもっと住みやすく！ |
| 三戸町の住みやすい町とは |
| 三戸町産の林檎を使って商品開発をして、よりたくさんの人に三戸町の林檎を食べてもらうこと |
| 町内会の実態を知り、改善点を探す |
| 三戸町の町内会の改善点を見つけ改善する |
| 三戸町の特産物を知ってもらうために |
| 集客するにはどのような企画をすればいいのか |
| スポーツフェスティバル |
| みんなが集まれる映画館に |
| 廃校舎を活用して木のおもちゃ美術館を作る |
| 住み続けたいと思えるような町づくり |
| 三戸高校の魅力と課題 |
| 地域と高校 |
| 地域活動の活性化と魅力化を |
| 杉沢小中学校廃校舎の有効的かつ魅力的な活用についての提案 |

SDGsの視点で 地域活性化策発表

三戸高生、アイデアコン

青森県立三戸高(豊川武伸校長)の2年生が、持続可能な開発目標(SDGs)の視点から地域活性化策を発表するアイデアコンテストが8月31日、同校で開かれた。生徒は魅力発信アニメの制作や廃校リノベーションなど、長く住み続けられる地域の実現に向けて柔軟な発想を披露した。

県教委の「持続可能な地域づくり『あおもり創造学』プロジェクト事業」の一環として実施。2年生31人が7班に分かれ、それぞれ違うテーマを研究した。

八戸学院大地域経営学科講師の井上丹さん、南部じき(南部町)代表社員の根市大樹さんが審査を担当。最優秀賞には、バス停に遊具を設置する「『三戸遊園地計画』」と、五世代参加型で明るい未来に「」が選ばれた。

三戸町を舞台とするアニメ制作を発表したグループでリーダーを

三戸



グループで研究したアイデアを発表する生徒(左)

務めた小川志織さん(17)は同町出身。IIは「地元人口が減る中でどうしたら地域が明るくなるかを考えた。審査員のアドバイスを参考に、さらにアイデアを練りたい」と話した。

(上條哲洋)

デーリー東北新聞社（令和4年9月7日）

地域資源の活用方法 三戸高生が報告

地域活性化プロジェクト

青森県立三戸高(豊川武伸校長)の生徒が、持続可能な開発目標(SDGs)の視点から考案した地域活性化プロジェクトの報告会がこのほど、同校で開かれた。生徒は三戸高の魅力化や町内会振興、イベント出店などのアイデアを発表し、地域資源の活用法を示した。

県教委の「あおもり創造学プロジェクト事業」の一環。3年生30人が9グループに分かれ、4月からそれぞれ設定したテーマを探究した。報告会には八戸学院大地域経営学科講師の井上丹さんや、探究活動に協力した三戸町まちづくり推進課の職員らが来場。生徒はスライドを使いながら順番に成果を発表した。

城山公園の秋のライトアップ期間に、地域特産のリングを使ったカップケーキを販売するアイデアを披露したグループの大向沙弥さん(17)は「イベントを盛り上げるために自分たちができることはないかと考えた。販売へ向けて試作品作りに取り組みたい」と意気込んでいた。

(上條哲洋)

三戸



生徒が地域活性化のアイデアを披露した報告会

報告会

デーリー東北新聞社（令和5年10月5日）